

大正十年十一月

大阪市ニ於ケル細民密集地帯ノ廢學
兒童調査ト特殊學校ノ建設ニツキテ

大阪市役所教育部

緒言

本調査ハ市内貧窮兒童ノ教育的救濟ヲ爲サンカ爲メ其ノ生活ノ真相ヲ明カニシタルモノニシテ鈴木視學主トシテ其ノ任ニ當リ數日ニ亘リテ探檢的實查ノ結果ナリ

目次

(一)	大阪市ニ於ケル細民密集地帯ノ概観	一
(二)	同地帯ニ於ケル廢學兒童數ノ概要	一
(三)	各細民地帯ノ略説	一
第一	大阪市南部ノ細民地帯	一
(イ)	市外今宮町方面ノ細民狀況	一
(1)	今宮町ノ木賃宿	一
(2)	同木賃宿客ノ職業收入其ノ費途	二
(3)	同木賃宿附近ノ細民狀況	二
(ロ)	市内日本橋方面ノ細民狀況	二
(1)	同方面細民窟ノ沿革	二
(2)	同方面細民ノ狀況	三
(ハ)	市内北島町方面ノ細民狀況	四
(1)	同方面ニ於ケル兒童	四
(2)	同方面ニ於ケル彼等ノ住宅	四
(3)	職業、收入、費途	四
第二	大阪市北部ノ細民地帯	五
(イ)	市外豊崎町方面ノ細民狀況	五

山形新報
1933.2.2

(口)

(1)	細民ノ木賃宿	五
(2)	同木賃宿ニアラサル密集地帯	五
(3)	職業、收入、生活、貧民心理	六
	市内天神橋六丁目附近ノ細民狀況	六
(1)	コノ方面ニ於ケル密集地域	六
(2)	コノ方面ノ兒童	八
(3)	職業、收入、其ノ費途	八
(4)	住宅	八
	(四) 都市貧民ノ物質的、精神的性質ト其改善策	九
	(五) 特殊學校建設ニ對スル市ノ方針	九

(一) 大阪市ニ於ケル細民密集地帯ノ概観

大阪市内ニ於ケル貧窮者密集地帯ノ中心ニハ南ニ今宮町、北ニ豊崎町アリ、コノ兩中心地域ハ更ニ南部ニアリテハ廣田町、北島町、東關屋町、日本橋東一、二丁目、下寺町三、四丁目方面ニ延長シ北部ニアリテハ樋ノ口上ノ町、天滿橋西四、三、二丁目、天滿橋筋六、七丁目、天神橋筋東三、四丁目、本庄浮田町、黑崎町、西權現町、北野小深町、野崎町、本庄葉村町、南濱町方面ニ延長ス此等兩地帯ニ住スル所謂都市貧窮者ハ生存競争ノ激甚ナル大都市生活ノ劣敗者、即チ大都市ノ社會的環境力必然的ニ生々出シタル都市ノ頽廢的方面ノ最左翼ニシテ何レノ大都市ニモ發生セサルヲ得サルノ現象ナルヘシ

(二) 同地帯ニ於ケル廢學兒童數ノ概要

是等ノ地域ニハ學齡兒童ニシテ未就學及中途廢學ノ者頗ル多シ今是等兒童數ヲ警察當局ト共力シテ調査シタルニ大要左ノ如キ數字ヲ得タリ

南部

其一、市外今宮町方面(通稱釜ヶ崎及其ノ附近)

約六百名 同部專屬小寺警部補ノ調査

其二、市内

(イ) 廣田町 東關屋 日本橋 下寺町方面

×百八十四名 戎署ノ戸口調査ヨリ

(ロ) 北島町方面 (本年八月ヨリ榮町ト改稱ス)

×約四百名 芦原署巡查(北島町專屬)廣田氏推定

北部

其一、市外豊崎町方面

○約五百名 同地專屬矢倉巡查部長ノ調査及ヒ推定

其二、市内天満橋、天神橋筋、浮田町、黒崎町、葉村町方面

×約五百名 葉村町細民部内專屬佐藤巡查部長ノ調査及ヒ推定

(三) 各細民地帯ノ略説

前述南北兩地帯ニ於ケル狀況ヲ各地域別ニ記述スレハ左ノ如シ

第一 大阪市南部ノ細民地帯

(イ) 市外今宮町方面ノ細民狀況

(1) 今宮町ノ木賃宿

大阪市内惠美須町市電車庫ノ南方關西鐵道線ノ「ガード」ヲ潜リ紀州街道ニ出ツレハ南方三四丁ノ間本街道ノ兩側ニ(特ニ西方ニ多シ)四十八軒ノ木賃宿アリ

小寺警部補ノ最近ノ調査ニ依レハ此等四十八軒カ有スル室數總計一千六百七十八、宿泊人口四千百四十七ニ達ス一夜泊リノ客ハ極メテ少ナク(毎日約百人位)他ハ悉ク定客ニシテ長キハ明治三十七年當地木賃宿ノ創立以來ノ者モアリ(約百人位)此等ノ人々ハ宿泊人トシテ宿屋營業主ヨ

リ届ケ出ツルノミニシテ寄留者トナラス從ツテ其ノ兒童ハ今宮町役場ノ學齡簿トハ全ク無關係ニシテ入學ノ督促モ受ケス進ンテ就學セントスル者アルモ公立學校ニ入學スルコトハ頗ル困難ナル事情ニアリ兒童中ノ少數者ニシテ市内廣田町徳風小學校及ヒ淨土宗青年僧侶ノ特志ニテ成立シタル今宮町ニ在ル四恩學院ニ通學スル者アルモ其ノ大多數ハ廢學ノ儘ニアリ幼キモノハ木賃小屋周圍ノ地ニ惡戯ニ耽リ稍々長シタル者ニアリテハ各種ノ少年勞働ニ從事シ親ノ手助ケト云フヨリハ寧口親ノ犠牲トナリツ、アリ

(2) 同木賃宿客ノ職業、收入其ノ費途

彼等ハ殆ント其ノ全部力無技術無熟練勞働者ニシテ其ノ最モ多キモノハ仲仕、手傳、土方、日稼、鮫鱈、屑物行商、捨物拾ヒ等ナレトモ其ノ職業ハ一定セス今日ノ土方ハ明日ノ仲仕、或ハ日稼トナリ一通り各種ノ仕事ニハ役立テトモ何事ニモ熟練シ居ラサル所謂未熟練無技術勞働者ナリ而シテ彼等ノ働場ノ殆ント全部ハ大阪市ニアリ

收入ハ最高參圓最低壹圓五拾錢子供十二三歳ヨリ十五六歳ノモノニシテ四拾錢乃至壹圓位ナリ彼等收入ノ大部分ハ外部(主トシテ大阪市内)ノ飲食店ニテ費サレ宿所家庭ニ持チ歸ルモノ極メテ少額ニシテ子供ノ教育等ニ考慮ヲ向ケ費用ヲ用フル如キハ殆ント無シト云フモ不可ナシ

(3) 同木賃宿附近ノ細民狀況

木賃宿附近一帶ノ地ハ殆ント細民窟ト云フモ不可ナシ彼等ノ生活ハ一小家屋ニ二世帯乃至三世帯ノ手狭ナルモノナリトハイヘ一家屋ヲ借り受ケテ生活シツ、アルモノ故木賃宿生活者ニ比シ

稍々上位ニアレトモ彼等ノ職業、收入、生活等ニハ大差ナシ此等ノ住民ハ木賃宿々泊人ト異ナリ其ノ土地ニ寄留シ居ル者多キ丈ニ今宮町小學校ニ通學スル者多シト雖モ廢學ノ状態ニアル兒童ノ境遇ニ就テハ前者ト大差ナシ

(ロ) 市内日本橋方面ノ細民狀況

(一) 同方面細民窟ノ沿革

此ノ地一帯ハ大阪市最古ノ細民窟ニシテ元長町ト稱シ(或ハ名護町、名吳町)雄略天皇ノ時吳ヨリ吳織羅織ノ織女ヲ獻ス其ノ時船ノ着キタル所ナリト云フ

元和五年(二二七九秀忠ノ時)東町奉行久貝因幡守此ノ地ニ旅籠十軒ヲ許可ス當時全市二十三軒ナリシカ此ノ長町ノ十軒ヲ除キ他ハ曾根崎ト八軒家トニ配置セリ之レ大阪旅館ノ嚆矢ナリ

當時長町ハ市ノ南端ニアリシヲ以テ何時シカ細民下層労働者其他惡漢無賴ノ徒ノ巢窟ノ地帶ト化セリ

寛文三年時ノ町奉行石見守更ニ同町裏手一帯其他ニ木賃長屋ヲ建テ是等細民ノ便ヲ圖ルト共ニ一方風紀ノ惡シキ下層労働者ニ對シテ此ノ地以外市内ニ居住一切相成ラスト嚴達セリ而シテ要所々々ニハ足溜場ナル労働寄場ヲ設ケ旅籠屋ノ支配下ニ屬セシメタリ

其後長町ノ繁榮次第ニ加ハリ諸國ヨリ入り込ムモノ多ク合邦ケ辻邊ハ西國巡禮其他乞食非人ノ野宿所トナリ体裁極メテ見苦シカリシカハ合邦ケ辻閻魔堂西北隅一帯ノ地ニ木賃屋假棟二十餘ヲ許シコレ等乞食ノ類ヲ收容セリ

固ヨリ惡漢無賴及ヒ下層細民ノ多カリシタメ風俗亂レ賭博其他罪惡ヲナスモノ多ク且ツ彼等互ニ相庇フノ風アリ時ノ與力同心モ手ノ付ケ様ナク始メノ中ハ宿屋業者中ヨリ年行司二人ヲ選ヒ後ニ八年番十二名ヲ置キ是等ト聯絡シテ不正者ヲ取締リタルモ遂ニ力及ハス殆ント惡徒ノ隱レ場所タルノ觀ヲ呈セリ

茲ニ於テ又與力同心ノ下ニ拔群豪膽ノ者三十名ヲ選ヒ千日前竹林寺裏ニ出張セシメコレ等惡徒ノ取締ニ備ヘ探偵捕縛ノ任ニ當ラシム此ノ竹林寺ノ出張所ヲ俗ニ「塀ノ内」ト稱シ惡徒モ此ノ出張所ノ人々ニハ多少僻易シ畏敬シタリト云フ

古老ノ言ニ依レハ此ノ「塀ノ内」ハ明治五六年頃マテ存シ之レニ從事セシ人ハ概ネ青樓ノ主人ナリシカ如シ

前述ノ如ク長町ハ惡漢無賴其他下層細民ノ巢窟タリシタケ社會一般ノ排斥スル所トナリ長町ノ住民ト聞ケハ何等信用ナク心アル住民ハ深ク之レヲ憂ヘ明治五年時ノ府權知事ニ歎願シテ今日ノ如ク日本橋筋ト改稱セリ

明治二十七八年以來此ノ地ニ各種ノ長屋(後ニ述フル分ノ長屋ハ此ノ時ニ源ヲ發ス)建造セララル、ト共ニ明治三十年全ク市内ニ木賃宿ヲ營ムコトヲ禁シタリ木賃宿ハ廢セラレタルモ木賃的日家賃制ノ長家ハ細民ノ生活ニ最モ便利ナルヨリ細民ハ尙此ノ地ニ蝟集セリ其後大阪市ノ人口増加ト共ニ都市周圍部ノ延引トナリ加フルニ此ノ方面ノ道路ノ改築其他ノ事情ニ依リ此ニ住スル細民ハ木賃宿ヲ中心トシテ市外今宮町及豊崎町方面ニ移動セサルヲ得サルコト、ナリ漸次細民

ノ數ヲ減シ今尙減シツ、アル狀況ニアリ

(2) 同方面細民ノ狀況

目下殘存スル細民密集地域ノ現狀左ノ如シ

(一) 八十軒長屋 下寺町三丁目

百四十七戸 人口五百四十三

(二) 新八十軒 下寺町三丁目

百七十二戸 人口五百六十五

(天王寺第三小學校分教場ノ敷地ニ決定近ク取毀ツ筈)

(三) 桃木裏 下寺町三丁目

九十五戸 人口三百九十六

(四) 爛的裏 日本橋東二丁目

百五十戸 人口五百四十七

(五) 豚屋裏 日本橋東二丁目(六道ノ辻ヲ南ヘ)

二十六戸 人口百三十

(六) 小笠原裏 日本橋東二丁目(豚屋裏ノ南方)

六十二戸 人口二百〇四

(七) 芋屋裏 東關屋町

四十三戸 人口二百二十三

(八) 鶴屋裏、竹屋裏 東關屋町(名古橋ト夕日橋ノ間)

八十八戸 人口四百三十五

(九) 社ノ裏 廣田町

百戸 人口四百四十七

以上ノ中芋屋裏、鶴屋裏、竹屋裏、社ノ裏八十軒長屋最モ甚タシ

彼等ノ職業ハ地域ニ依リ多少異ナレトモ大体ヨリ云フトキハ

衛生人夫、屑物選工、屑拾ヒ、屑物行商、有價物選工、手傳、鐵工、鉞力工、等ニシテ

其收入ハ男一人參圓五拾錢乃至壹圓五拾錢位ナリ中ニハ五六圓ノ收入アルモノモアリ

彼等ノ娛樂ハ飲酒、賭博、活動寫眞等ナリ

(ハ) 市内北島町方面ノ細民狀況

(一) 同方面ニ於ケル兒童

北島町方面中細民ノ最モ密集シツ、アル場所ハ北島町二丁目、三丁目、四丁目、ナリ有隣學校ノ兒童ノ大部分ハ此ノ三ヶ町ヨリ入學ス二丁目ハ學校ノ北隣ニ當リ三丁目、四丁目ニハ通稱百軒長屋及ヒ臺灣ト稱スル細民窟アリ(北島町一、二、三、四丁目ハ本年八月ヨリ榮町一、二、三、四、五丁目ト改稱)之ニ次クモノハ北島町一丁目、勘助町二丁目、鷗町四丁目等ナリ

北島町一、二、三、四丁目ノ四ヶ町ノ家屋數二千九十コノ中ヨリ有隣學校ニ入學シツ、アル兒

童約二百五十名其他未就學及ヒ半途廢學ノモノ約四百アル見込ニシテ其中督勵セハ直チニ入學ノ見込アルモノ百名乃至百五十名ニ達スヘシトハ該地域ニ於ケル專務巡查廣田氏ノ語ル所ナリ尙同巡查ノ推定ニ依レハ勘助町鷗町方面ニモ少ナクトモ二百名位ノ廢學兒童ヲ見ルヘシト

(2) 同方面ニ於ケル彼等ノ住宅

大正十年四月七日午後四時半頃北島町二丁目ノ細民町ヲ廣田巡查ノ案内ニテ視察セリ三筋ノ小路ニ岐レタル長屋ニシテ一軒ノ家屋ノ廣サハ二階七疊半下三疊二間位コノ一家屋中ニ普通ハ二階ニ一家族約五人乃至四人下ニ一家族同シク四五人最モ多人數住スル家屋ニテハ二階ニ二家族合計十一名、下ニ一家族五名ナリキ一軒ノ家賃八圓拾錢月ニ二度乃至三度ニ支拂ヒ居レリトノコトナリ

(3) 職業、收入、費途

北島町方面ニ於ケルコノ種ノ人々ノ職業ハ「下駄直シ」最モ多ク皮仕事其他之ニ類スルモノヲ主トス收入ハ「下駄直シ」ニアリテハ二人連レ乃至三人連レニテ一日ノ收入多キハ七八圓少ナクトモ貳參圓アリ有隣小學校大正十年三月卒業生ノ收入調ニ依レハ

一日	貳圓五拾錢	二人	一日	壹圓五拾錢	一人
同	壹圓參拾錢	一人	同	壹圓拾五錢	一人
同	九拾五錢	二人	同	九拾錢	二人
同	八拾錢	五人	同	七拾五錢	四人

同 七拾錢 七人 同 六拾錢 二人
 同 五拾四錢 一人

ナリ

彼等ノ住宅ハ簡單ニシテ衣類ハ極メテ粗末ナリ家内ノ食物等モ頗ル安價（牛ノ内臟物等最モ多シ）故勞働ニ勤メ節制ノ心發スレハ貯金モ出來ヘク數年ニシテ自己生活ノ改善ヲ見ルコトヲ得ヘキ筈ナレトモ金ヲ得レハ得ルカマ、ニ間食若シクハ飲酒ニ費シ節制アル生活ヲナサス從ツテ幾年ヲ經ルモ生活ニ向上ナク子孫ノ教育等ニ費ヲ投シ心ヲ用フルモノ極メテ稀ナリ

第二 大阪市北部ノ細民地帯

(イ) 市外豊崎町方面ノ細民狀況

(I) 細民ノ木賃宿

豊崎町全体ニ亘リ木賃宿四十一軒アリ位置ハ一定ノ場所ニ密集セス名義ハ宿泊ナレトモ其實ハ間借リノ定住者ナリ目下宿泊者ノ世帯數四百九十二、人口一千二百六十一（常ニ異動ハアレトモ居住者ノ數ニハ大ナル變化ナシ）其中七歳以上十四歳以下即チ學齡兒童數四百七名内公立小學校ニ通學スルモノ二十一名残り三百八十六名ハ中途退學若シクハ未就學兒童ナリ

一間ノ廣サハ二疊乃至三疊ニシテ借リ賃參拾五錢乃至四拾五錢ナリ一室ニ居住スル人員ハ普通三人多キハ五六人モアリ極メテ不潔ニシテ文明都市ノ人間ノ住居トモ思ハレサルハ南部細民住宅ト異ナラス

(2) 同木賃宿ニアラサル密集地帯

豊崎町本庄町方面ニ細民ノ小密集地帯約十二ヶ所アリ其ノ生活狀況ハ木賃宿生活ニ比シ稍々可
良ナレトモソレ等ノ低級者ニアリテハ木賃宿生活ト異ナラス家屋ノ大サハ普通二階一室(四疊
半)下二室(三疊ニ四疊半)位ニシテ其中ニ多キハ三世帯、少ナクトモ二世帯居住ス

今此ノ地方ニ於ケル主ナル地帯戸數人口ヲ舉クレハ

(一) 本庄、九百九十一番地ヨリ九百九十六番地

九十四戸 人口 三百二十三

(二) 稻畑裏

四十一戸 人口 百三十八

(三) 安養寺裏

二十七戸 人口 百〇一

(四) 南長柄派出所周圍(地獄裏)

七十二戸 人口 二百五十二

(五) 阪部裏

三十一戸 人口 百〇八

(六) 芦止裏

二十七戸 人口 九十三

(七)八幡裏

二十五戸 人口 百〇二

(八)小西裏

三十一戸 人口 百二十六

(九)閘門裏

十四戸 人口 五十二

(十)玄明庵裏

四十戸 人口 百五十一

(十二)山窩(乞丐ノ團體ナレトモ調査當時立退中)

四十三戸 人口 百四十六

(十三)二十五軒長家附近

九十三戸 人口 三百十三

(3) 職業、收入、生活、貧民心理

是等細民ノ職業ハ南部今宮方面ト大差ナク頗ル雜多ナレトモ要スルニ無技術勞動者ニシテ主ナル職業名ヲ舉クレハ仲仕、手傳、土方、日稼、屑物拾ヒ等ナリ

而シテ是等ノ職業ハ固定シタルモノニアラス今日ノ屑拾ヒモ明日ノ仲仕トナリ何等一定ノ仕事ニ熟練セス唯比較的ニ安樂ニシテ賃金多キ方ニ變化シツ、日々異動ス努力ニ依ツテ一定ノ職業

ニ習熟セントスル志アルモノ極メテ稀レナリ

收入必スシモ少ナカラス男一人參圓乃至壹圓七八拾錢善ク繼續シテ勤勞ニ從事セハ彼等ノ簡單ナル生活ニハ餘裕モ生スヘキ筈ナレトモ少シク餘裕アレハ徒食シテ働カス收入ノ大部分ハ酒ト間食トニ費シ囊中空虛ヲ訴ヘテ始メテ働キニ出ツルヲ常トス

斯ノ如キ狀態ヲ繼續スルノミニテ幾年ヲ經ルモ同シ境遇ヲ脱スルヲ得ス彼等亦之レヲ不快ト感セス禮儀作法ノ必要モナク近所交際ノ煩モナク荒ヒ果テタル人々ノ心ニハコレ等ヲ最モ氣樂ナル境地トシテコノ境遇ニ安住シテ何等ノ不安ヲ感セス從ツテ一度コノ境地ニ陥リタルモノハ再ヒ眞面目ナル人生生活ニ復歸スル能ハサルモノ、如シ

(ロ) 市内天神橋六丁目附近ノ細民狀況

(1) コノ方面ニ於ケル密集地域

大阪市ノ北部天神橋六丁目電車停留所ヲ中心トシテ東西二亘リ市外豊崎町ニ接スル方面ニ約十ヶ所ノ細民密集地域アリ

(一) 樋之口上ノ町

約二十五六戸 人口 八九十

豊崎町ノ山窩ト同様ノモノニシテ殆ント乞丐類似ノ職業ヲ營ム即チ紙屑拾ヒ、猿廻シ等ノ類多シ

此ノ町ノ斯種住民ハ生理的ニ片端者多ク生活ヲ改善スヘカラサル事情アルニ似タリ

(二)天満橋西四、三、二丁目

約百戸 人口約五百

住民ハ大部分紡績ノ下級職工及ヒ其ノ落伍者其ノ他ハ夜店營業者、土方、雜役人夫、紙屑行商、下等ナル飲食行商等ナリ

(三)天満橋筋六、七丁目

約四十戸 人口約二百

天満橋筋四、三、二丁目ヨリハヤ、可良ノ狀況ニアレトモ大差ナシ

(四)天神橋筋東三、四丁目

約百二十戸 人口約六百位

(二)、(三)ノ如ク職工及ヒ職工ノ落伍者ハ少ナク主トシテ下級行商者ナリ植木、紙屑、飲食物等ヲ取扱フ

以上四ヶ地帯ハ天神橋電車筋ノ東方ニアリ(一)最モ細民ニシテ(二)、(三)、(四)ト漸次ニ生活状態可良ナリ

(五)本庄浮田町

約三十戸 人口約二百

職業ノ主ナルモノハ手傳、市電人夫、衛生人夫等ノ日稼人夫ニシテ稍々上等ノ方ニテハ鐵工職等アリ

(六) 黒崎町

約三十戸 人口 約 百餘

職業ハ主トシテガラス製造ニ關係アル不熟練職工ナリ

(七) 西權現町

二十七八戸 人口 約百四五十

職業ハ梅田驛附近ノ車夫、手傳、「うごん」「ぜんざい」等ノ行商ナリ

(八) 北野小深町

約三十戸 人口 百二三十

職業ハ車夫、鐵道省ノ雜役夫、行商ノ類ナリ

(九) 野崎町

二十五六戸 人口 約 八十

職業ハ雜役人夫、日稼類ヲ主トス

(十) 本庄葉村町ノ一部ト權現町ノ一部

百三十戸 人口 六百十六

(十一) 南濱町

二十六戸 人口 百〇九

以上(十)(十一)ハ所謂部落民ニシテ特別ノ事情ヲ有ス職業ハ靴、下駄直シ等ナレトモ其ノ町ニ

テ營ムモノ極メテ尠ナク道具ヲ携ヘ子供ヲ伴ヒ市内各所ニ轉々營業ス

(2) コノ方面ノ兒童

(十)(十二)ノ二地域ハ曾根崎署詰細民部改善主任伊藤彌太郎氏ノ官舎所在ノ地ニシテ特ニ詳細ノ調査物アリ此ノ二地域住民七百二十五人中ノ兒童數百五十六人中公立小學校ニ入學シツ、アルモノ僅カニ四十七名ニシテ残りノ大半ハ親ノ職業ヲ助ケテ市内各所ヲ轉々營業ス他ノ大半ハ家ニ残り「バツタ」其他賭博ニ類スル惡戯ニ耽リツ、アリ即コノ(十)(十二)ノ地域ニ住スル廢學兒童一百人餘其他(一)ヨリ(九)ニ至ル地帶ヲ合算スレハ精確ナル統計ハ目下示スコトヲ得サルモ(十)(十二)地域ノモノヲ合シテ約五百名ヲ下ラサルヘク

是等ノ兒童ハ大部分親ノ手傳ト云フヨリハ親ノ犠牲トナリテ職業ニ從事スルカ然ラサル者ハ家ノ周圍ニ三々五々相集リテ惡戯ヲナスヲ常トセリ

(3) 職業、收入、其ノ費途

(一)ヨリ(十二)ニ亘リ最モ收入ノ多キハ(十)(十二)ニシテ「下駄、靴等直シ」ニアリテハ二三ノ子供ヲ伴ヒ最モ收入多キ日ニアリテハ拾貳參圓ニ上ルヘク六七圓乃至貳參圓ハ普通ナリ是等ノ收入ハ主人ノ分妻ノ分子供ノ分ト其日其日ニ分配サレ其ノ大半ハ飲食(主トシテ間食)其他ハ質物ノ利子、高利貸ノ利子、日常費ニ費消シ盡サレ殘ストコロ殆ントナク是ノ如クシテ其日其日ヲ過スノミ

其ノ他ノ地域ニ於ケル者ノ收入ハ他ノ一般細民部面ト多ク異ナラス生活狀態亦然リ

(4) 住 宅

彼等ノ居住スル家屋ハ二階二室(四疊半ニ二疊)下二室(同上)位ノ所ニ四家族乃至二家族ニシテ是亦他ノ細民町ト大差ナシ

(四) 都市貧民ノ物質的、精神的性質ト其ノ改善

彼等ヲ物質的ノ極貧者ト云フハ當ラス全ク精神的方面ノ極貧者トモイフヘキモノニシテ此ノ精神ノ回復セサル限り彼等ノ生活ヲ改善スルコトハ不可能事ニ屬ス從ツテ之レカ對策トシテ物質的救助ノ方面ノミニ着眼スルハ決シテ其策ノ得タルモノニアラス特別ノ事情ノ者若シクハ特定ノ場合ノ外ハ物質的ノ恩惠力却ツテ仇トナリ甚シキニ至ツテハ彼等ノ所謂「ドン底生活」ヲ繼續スルニ便利ヲ與フルニ過キササルカ如キコト無シトセス

故ニ是等同情スヘキ民衆ノ根本改善策トシテハ比較的無垢ノ状態ニアル彼等ノ子供ニ着眼シ之ニ適當ナル教育ヲ施シ是等細民ノ第二世ノ魂ヲ救フト共ニ此ノ教育事業ヲ中心トシテ子供ヲ通シテ親ノ精神ノ救濟ニ及フヲ以テ最モ良策ナリト信ス

然ルニ現今ニ於ケル子供ノ状態ヲ見ルニ稍々年長者ニアリテハ親ノ手助ト云フヨリハ寧ろ親ノ犠牲トナリテ勞働ニ從事シ年少ノ者ニアリテハ家ノ周圍ニ三々伍々相集マリテ主トシテ惡戯ニ耽リ好マシカラサル周圍ノ社會的風習ノ中ニ育チ時々刻々ニ其ノ惡習ニ染ミ所謂世襲的ノ細民トナリ不良少年ノ卵トシテ育チツ、アルハ洵ニ悲シムヘキ現象ナリトス之ヲ此ノ儘ニ放任センカ獨リ人道上ヨリ見テ彼等個人ノ不幸トナルニ止マラス延ヒテハ我國家社會ノ物質的損失ハ勿

論精神的ニハ危險思想ヲ醸成シ近クハ我大阪商工大都市ノ産業の根底ヲ脅シ進ミテハ我帝國ノ精神的健康ヲ危クスルノ虞レナシトセス警戒スヘキニアラスヤ

(五) 特殊學校建設ニ對スル市ノ方針

大阪市南北兩地帯ニ於ケル細民ノ教育状態ヲ比較スルニ精神的並ニ物質的ノ意味ニ於ケル所謂都市貧民タルノ本質ニ於テハ兩者異ナルトコロナシト雖モ其ノ量ニ於テハ南部ハ北部ヨリ遙カニ甚タシト云フヘシ然リト雖モ南部方面ハ大阪市ニ於ケル歴史の細民地帯タルノ故ニカ比較的以前ヨリ個人トシテノ特志家ノ盡力行ハレ市内ニハ德風、有隣、愛染ノ三校アリ市外今宮町ニハ最近四恩學園アリ是等不幸ノ兒童ヲ收容シ教育ニ盡力サル、點多ク加フルニ之ト關係シテ警察側ノ共力モ與ツテ力アリ故ニ此ノ方面ノ市内細民町ノ中心ニハ廢學兒童少ナク(市外今宮町ハ然ラス)却テ細民地域ノ周圍ニアル稍々生活状態ノ可良ナルヘシト推察サル、部分ニ多キハ注意スヘキ現象ナリトス北部方面ニアリテハ最近都市ノ膨脹ニ伴ヒ生シタル新開地ニ集合シタル細民地帯ナルヲ以テ歴史モ極メテ淺ク從ツテ南部地帯ニアルカ如キ教育的施設乏シク南部ニ比シ量ニ於テハ甚シカラサル貧民地帯タルニ拘ラス兒童廢學ノ狀況ハ却テ甚シキ状態ニアリ右ノ事情故本市ノ之ニ對スル經營トシテ北部ニハ市立直營ニシテ稍大ナル學校ノ設置ヲ必要トシ南部ニハ從來ヨリ盡力サレタル特志家經營ノ事業ヲ尊重シ之レノ了解ヲ得テ其ノ事業ヲ繼承シ發達セシムルヲ可トス